

1 本年度の重点目標

自律する力を確かなものにする～優しさあふれる大麻東中学校～

「優しさあふれる大麻東中学校」を基盤に、思いやりを大切にした生徒主体の取組を引き続き推進する。学校全体の温かい雰囲気を基盤に、生徒一人一人が自ら考え正しい判断で行動する力を確かなものにすることを目指す。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
経営方針の重点	教育活動や教育環境の適時適切な改善に努め、思いやりのある言動を基盤にいじめを根絶し、生徒が自律した力を身につけられるように指導している。	A	全教職員が重点目標を理解し、様々な教育活動の中で目標達成に向けた取組がなされているため、継続して取り組んでいく。さらに小中一貫教育で目指す子ども像の具現化に向けて、確実な情報共有を行い、生徒理解に基づいた指導、生徒主体の活動の活性化を図る。	A	A
	グラウンドデザインや学校だより、学年学級通信、安心・安全メールや改編したHPも有効に活用して積極的な情報提供に努めるなど、学校と家庭、地域の連携や協力を大事にしている。	B	働き方改革の視点も取り入れ、ツールを整理することで保護者や地域に効率的に情報を届けられるよう工夫する。学年通信と学級通信の役割の整理や、ホームページを活用した行事の紹介、部活動に関する情報提供を行い、ニーズを捉えた情報発信により、地域の学校としての存在感を高めていく。	B	B
教育課程・学習	授業の礼の状況を把握し、必要に応じて指導している。	A	教員間で指導する目的について再確認を行うことで、教科の特性や学年のオリジナリティの幅を許容しながら、目的を達成するための指導を継続していく。	A	A

指導	生徒の書いている文字の状況を把握し、必要に応じて指導している。	B	タブレットの使用や書き込みが限定的なワークシートの使用などが増えると、文字を書く機会が減少しがちだが、手で文字を書く機会が失われないようにしつつ、机間支援や提出物等を通して指導を継続する。小中一貫教育の中でも取り組んでいく。	B	A
	生徒一人一人が分かり直すチャンスがあり、次時への意欲をもてるよう、毎時間、振り返りの場面を必ず位置づけ、必要な指導を行っている。	A	教科の指導計画によっては毎時間にならないこともあるが、まとめと振り返りの違いについて研修を通して理解が進み、実践につながっている。今後も継続して取り組んでいく。	A	A
	新しい生活様式の中で工夫しながら、授業の中で必要に応じて生徒の発表や交流を位置づけ、生徒に考えを確かめさせたり深めさせたりしている。	A	地域の感染レベルに応じて方法を工夫することで、発表や交流の機会を確保できている。今後も研修によってより効果的な方法を模索しながら、生徒の深い学びを実現できるよう、継続していく。	A	A
	分からない生徒、学習が遅れがちな生徒へのスモール・ステップの指導などの配慮や、分からない時は分からないと言える生徒との関係づくりなど、どの生徒も分かりやすい授業を心がけている。	A	授業改善を目指した研修や、生徒理解を進める日常の実践を通して、教員の評価も生徒の評価も向上していることから、今後も継続していく。また、学力差に配慮した放課後学習を工夫し、学習が遅れがちな生徒が学ぶ楽しさを味わえるよう、手立てを講じていく。	B	A
	総合的な学習の時間で、単元を通して、課題設定→情報収集→整理分析→まとめ表現の過程で学習活動を展開している。	A	新型コロナウイルス感染防止の観点から、実施時期の延期や内容の変更等を行い、学習の見通しを持つことや適時に時数を確保することが難しかったが、方法の工夫により生徒にとって	A	A

			は充実度の高い結果となっている。次年度もカリキュラムを柔軟に調整することで、生徒の主体的な学習を保障したい。		
	タブレットや電子黒板の活用方法について研修し、それらの機器を授業のツールとして有効に活用している。	B	電子黒板は教科の学習や学級活動に広く活用されている。タブレットについても情報の収集・整理、発表・表現等に活用され、授業の振り返りや小テスト、話し合い活動にも活用している教科がある。一方で、教員のICT技能の差が授業での活用の差となっている実態もあるため、校内研修を充実させ、全教員がより適切に活用できるようにする。	B	A
生徒指導	生徒に進んで笑顔であいさつするとともに、生徒に必要なに応じて指導している。	A	「優しさあふれる職員室」の取組を推進し、挨拶の活発化、相談しやすい雰囲気醸成を図る。	A	A
	生徒の机の上やまわりの整理整頓の状況を把握し、必要な指導をしている。	A	委員・係活動を活用し、自分達の環境を自分達で整える姿勢が育まれてきているため、今後も必要な支援、指導を継続していく。	B	A
	視覚的な支援、スモールステップの配慮、好意に満ちた言葉がけ、あたたかい学級経営や授業・部活動指導など、特別支援教育の視点を踏まえた指導を行っている。	A	生徒一人ひとりの個性や特徴を的確に把握し、良いところを見つめながら成長を促す指導が実践できているため、今後も継続する。また、教室環境や授業のユニバーサルデザインについて、さらに研修を深めていく。	B	A
	スマホやネットの正しい利用法について、適時適切に指導している。	A	生徒会の主体的な取組の成果もあり、生徒の意識は高まっている。今後もえべつスマート4ルールの定着を目指し、情報モラル集会、えべつ中学生サミットの機会を	A	B

			有効に活用していく。また、保護者に対する啓発の機会を充実させていく。		
--	--	--	------------------------------------	--	--

**【評価項目の設定、達成状況及び改善の方策に関する学校関係者評価委員の意見】**

- ・コロナ禍の中、大変な状況でも十分目標を達成できている。
- ・生徒の様子から、「挨拶がしっかりとでき、感謝の気持ちを持って生活している。」「素直である。」「勉強や部活動、趣味など、打ち込める生徒が多い。」ということを感じる。地域性もあるが、全教職員の尽力があつてのことであり、感謝したい。
- ・コロナ禍だからこそ主体的にそして広く物事を考えることや、ネットやSNSではカバーしきれない対面の大切さやコミュニケーションの重要性などを感じる人が多い1年だった。そのような中での教育活動や生徒指導は大変なことばかりだと思う。
- ・この2年で教育の現場は大きく変わっていると思うが、新しいツールは有効に活用し、コミュニケーション能力の向上を図ってほしい。
- ・授業の礼で「2秒頭を下げる」については、生徒が立てた目標だとしても、適切とはいえない。形式的になっては礼儀を欠くことになるので、節度ある行動であれば時間は不要ではないか。
- ・自律する力を確かなものにするということについては、教職員もさらに深く考えるべきものと思う。

**【評点】** A：よい      B：おおむねよい      C：ややよくない      D：よくない